

いぶき

令和4年11月1日発行

第33号

二本松市農業委員会

☎0243-55-5148(直通)



▲今回のcafeを運営されていた会員の皆さん

農gannic女子cafe

inにほんまつ城報館

晴天に恵まれ、箕輪門の白壁が輝く9月11日に「にほんまつ城報館」を訪れました。

今年の4月に正式発足し、本格的に活動をスタートした「あぶくまの里農gannic女子」が開くオープンカフェの取材です。

会員の皆さんが忙しく動き回る時間にも関わらず、取材にご協力をいただきました。

皆さんが丹精込めて栽培した野菜や果物、はちみつなどの加工品を販売するなか、注目したのが、「おにぎらず&味噌玉」のワークショップ！



▲「おにぎらずワークショップ」の様子

「おにぎらず」は海苔とご飯の上に野菜やハムなどを何層にも重ねて、サンドイッチ風に仕上げた逸品です。

「味噌玉」は好みの具材と味噌を

ラップに包んで保存するもの。お湯を注げば、本格的な味噌汁がいつでも楽しめます。冷凍すると、約1か月保存できるそうです。

年配のご夫婦や小さなお子さんと一緒に訪れた家族の方などが、会員の手ほどきを受けながら楽しい時間を過ごされていました。

取材の最後に「無添加のりんごジュース」と「柿の葉茶」をご馳走になり、たいへん美味しかったです。

今回取材させていただいた「あぶくまの里農gannic女子」が目指す将来や、発足し活動するまでの経緯などについて、次のページで紹介します。



▲味噌玉とおにぎらず



▲無添加のりんごジュースと柿の葉茶



これからの農を創り、

彩り添える女性たち！



前ページで紹介した「あぶくまの里農ganic女子」の活動状況について、会長の菊地留美子さんからお話を伺いました。

昨年、会の事務局でもある市内東新殿の榎清峰園で開催された「学びをとおしてつながろう！目指せ農業女子・豊かな食」講座の受講者が中心となり、今年4月に発足しました。

この講座では、講師として茨城大学名誉教授の中島紀一先生が有機農法について講演されたほか、現地での農業研修等も行い農業や食を通じた地域の取り組みについて学ばれたそうです。

会のメンバーは、地元農家に嫁いだり移住して農業を志す女子や安

心・安全な食べ物に関心のあるお母さんなど、多くの方々が参加されています。

会員の皆さんは、我が家の仕事を



①



②

頑張りながら、会のイベント運営や講座の受講と、日々奮闘されており

にも繋げていきたいと熱く語ってくださいました。

取材の日、幼い子供さんと一緒にcafeを運営していた会員が多く見つけられたのも納得です。

また、農と食に親子で関われる場を提供するとともに、マルシェの開催を定期的に行うなど、女性が不安に思う就農や経営への相談にも対応していきたいそうです。

オーガニックを主とした農産物の生産、それらを使った6次化商品の開発を進めるとともに、首都圏でのイベントなどで今回のようなcafeを出店し、農業の可能性や面白さを広め、県内への移住・就農

会の規約を拝見させていただきましたが、本気度がひしひしと感じられました。

農業の苦労や楽しさを会員の皆さんで共有しながら、次の世代に想いが繋がりますよう、これからの更なる飛躍を期待したいと思います。

また取材の機会が訪れたときには、絶対に「おにぎらず」のワークショップに参加したい！
そんな想いをいだきながらの寄稿となりました。

(安齋浩一委員)

- ①畑チームでの植え付け作業
- ②収穫した枝豆たち
- ③六次化チームで検討された、エゴマの6次化試作品

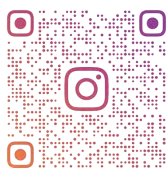


③

農ganic女子さんの詳しい活動内容・今後のイベント情報等はこちらから↓



Facebook QRコード



@NOUGANIC.GIRL Instagram QRコード

～農業委員・農地利用最適化推進委員研修会～

「思いをカタチに出来る座談会の開き方」
みんなが参加したくなる会とするために

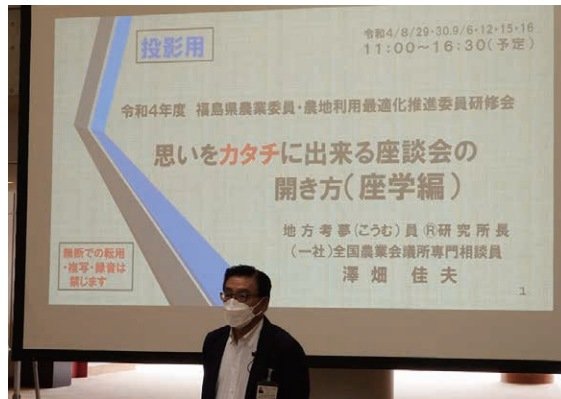
去る9月15日福島市のパルセ
いざかにおいて県北・相双地
区の農業委員、農地利用最適化
推進委員研修会が開催されまし
た。

今回の研修会は新型コロナウ
イルスの感染拡大防止のため参
加人数の制限があり、当農業委
員会からは二本松・佐藤勝則委
員、安達・安斎栄委員、東和・
菅野秀和委員、岩代・遠藤康子
委員と事務局の5名が出席しま
した。

研修会の冒頭に福島県農業委
議の奥平貢市副会長（当農業委



▲主催者挨拶をする奥平副会長



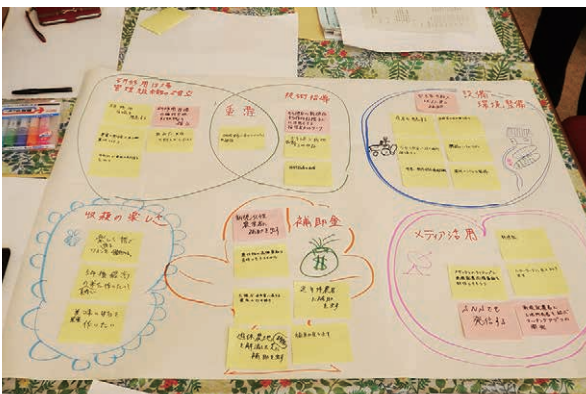
▲全国農業会議所の澤畑佳夫先生

員会会長）より挨拶があり、引
き続き福島県農業会議職員から
「集落話し合い運動による農地利
用最適化活動について」の説明
受けました。

続いて、全国農業会議所の澤
畑佳夫先生を講師に「思いをカ
タチに出来る座談会の開き方
について」を受講いたしました。

午後からは「新規就農者を確
保するアイデアを考えよう」
をテーマに実際に8グループに
分かれ、付箋紙を使った座談会

形式でのワークショップ（参加
者が主体となる体験型講座）を
体験し、その後、グループでま
とめた結果の発表を行いました。



▲グループ内の意見を集約



▲様々な意見が飛び交ったワークショップ

最後に各委員が自分のグ
ループ以外の良いと思った項
目に赤いシールを貼り、シー
ルの数が一番多い項目が地域
（集落）として進めていくべき
目標になるといことを確認しま
した。
とても有意義な研修会で、
今後に役立てたいと強く思い
ました。

（遠藤康子委員）



▲グループでまとめた結果を発表

農業者たち



Vegetable

夢を叶えて 酪農生活

安達太良高原の岳地区に新規就農された渡辺大介さんをご紹介します。

昭和60年生まれで、満38歳のバイタリティーにあふれた好青年です。

小さい頃より牛にふれあうことが大好きで、将来酪農をやりたいという夢を常に抱いていたとのことでした。

当然、高校受験では畜産科のある岩瀬農業高校を受験、見事合格し夢への第一歩を踏み出しました。

高校を卒業し大手牧場へ就職、場長として全ての管理を任される貴重な経験をし、自信をつけることが出来たということです。その後さらに技術を高めようと酪農ヘルパーへの道へと進みます。

この時期に元牧場主の田中さんと知り合い、田中さんから人間性を高く評価され、信頼されるようになりました。

その田中さんが重い病気を患い酪農を断念せざるを得なくなり、十分に考えた末に全てを譲ることが出来るのは大介さん

ん以外にいないと決断されたそうです。このような経緯があり田中さんの意思を継ぐことを決意されました。

現在非常に厳しい畜産業界ですが、岳地区には中規模農家が多く、メガ牧場にはない横のつながりの強さが最大の利点であるということでした。

今後この地区の強みを生かし、若い力を武器に地域とともに歩んでいきたいと力強く話されており、にこれからの活躍が大いに期待されます。

(佐藤洋三委員)



▲渡辺大介さん

有機農業で 販路を開拓



▲菅野大地さん

菅野大地さん(25歳)は、首都圏の大学に進学をして卒業後も首都圏の就職しましたが、やがて、地元に戻って農業をしたいと強い思いから令和元年に二本松市小浜にUターンし、新規就農しました。

その後、オーガニックふくしま安達で渡辺文男さんとお会い、渡辺さんの農場で1年半にわたり農業研修を受け、昨年4月に小浜下館で有機農業での認定新規就農者を目指して独立しました。

50aの畑にナス、ピーマン、インゲン、ニンジン(冬季)を栽培し、近隣のスーパーなどへ

出荷しています。

大地さんは「今は精神的にとっても楽、スーパーからはもったいなく、沢山持つて来てほしいと依頼がある、有機栽培は雑草・虫の管理が大変ですがやりがいのある仕事です。」と話してくれました。

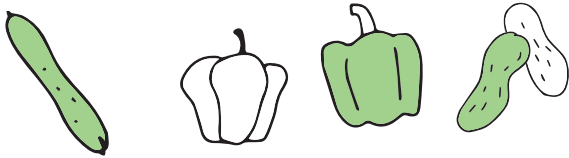
冬季間は野菜の栽培が少ないためアルバイト中心の生活ですが、今後はハウスを活用して野菜を多く栽培しアルバイトを少なくしたいと考えているそうです。

これからの目標を聞くと「農業は完全な休みが無いので体をいたわり、効率的に作業を行い、少しずつ栽培面積を増やしながら自分のために楽しい有機農業を続けていきたい。」と楽しそうに話してくれました。

(遠藤康子委員)



▲ナス畑での作業



未来を担う

新規就農者の活躍に期待!



▲板橋諄也さん

今春より東和地域針道地区で新規就農している板橋諄也(じゅんや)さん(25歳)をご紹介します。

板橋さんは会津美里町出身で、現在きゆうり10a、ネギ25aを栽培しています。

板橋さんが二本松市で就農したきっかけとなったのは、将来は農業関係の仕事に就きたいと考えていた大学時代に、「農業人フェア」というイベントに参加し、モニターツアーで大野達弘さんにお世話になったことです。



▲板橋さんが管理するネギ畑

その後、二本松市で地域おこし協力隊を募集していることを知り応募しました。大学卒業後、三年間地域おこし協力隊員として、東和地域内の農家のお手伝いや伝統行事への参加等色々と体験する中で、地域の方々との交流を深めていくことが出来ました。特に、新規就農者との交流はその後の活動のヒントにもなり今につながっていると感じていきます。

地域おこし協力隊員としての三年間の活動ののち、福島県農業短期大学で農業を学び、さらにモニターツアーでお世話に

農業技術を次代につなぐ

東和地域の針道地区で長らく新規就農者への指導に携わっていらつしやる大野達弘さんにお話を伺いました。

大野さんは約25年前から農業研修の受け入れを行っており、合計で30人ほどの新規就農者へ指導を行ってきたそうです。

大野さん自身はキュウリ、トマト、ネギ、水稲の栽培を行っており、主にそれらの作物の営農指導を行っています。研修生の希望にあわせて他の指導者への紹介等も行っているとのことでした。

また、農業収入がなくなる冬季の収入源確保にも取り組んで



▲大野達弘さん

おり、農業者が協力して林業に従事することで安定した収入となる様な仕組みを進めているそうです。研修を受けた人が自立して農業をやっている姿を見ることが農業指導のやりがいとなっているとのことでした。

なった大野さんに一年間現場での農業を学ばせていただきました。そして、これまで関わってくださった多くの方々のご協力とご尽力のお陰で、今春より自立して農業に携わることとなりました。今後は、人員の雇用も含めて規模を拡大していきたいと考えています。また、冬季の農閑期

の仕事として林業にも携わりたいと考えています。板橋さんの就農に至るまでの経過の中で、多くの人々との出会いや関わりが大きかったと話しておられました。多くの夢を持ち真摯に農業に取り組み板橋さんに、今後地域ぐるみで応援していきたいと思えます。

(石川重彦委員)

～令和4年 農業委員会作況調査～

令和4年の農業委員会による作況調査が9月20日、台風の雨が残るなか実施されました。



下川崎の野地明さんには水稲の状況を見させていただきました。作柄は平年並みとのことでした。反収の見込みは、天のついで9.5俵、コシヒカリは8.5俵とのことです。

針道の大槻昌広さんはキュウリを4反ほど作付けされていて、ハウスで2反5畝、露地栽培が1反5畝とのことでした。ハウス栽培では病気が発生してしま



▲下川崎・野地明さん

い、苦戦しているとのことでした。目標収量は40トンとのことでした。

東新殿のドカーティ有子さんは、旦那さんと共に新規就農され3年目になりました。キュウリをはじめとした野菜栽培と養鶏をされています。徐々にキュウリ栽培の収量が上がっており、養鶏も少しずつ増やしていくとのことでした。

上長折の渡邊恒宏さんはナスの栽培を20年ほど行っており



▲針道・大槻昌広さん



▲東新殿・ドカーティ有子さんとクリスさん

ます。今年は苗を500本ほど作付けされたとのことでした。収量は約7.5トンとのことでした。また、連作障害が起らないか心配しているとのことでした。

箕輪の齋藤弘美委員には水稲を見せていただきました。コシヒカリは2町7反、天のつぶは3町7反栽培されているとのことでした。天のつぶはカメムシ防除対策をされているとのことでした。また、備蓄米も500袋ほど生産されているとのことでした。



▲上長折・渡邊恒宏さんとチイ子さん



▲箕輪・齋藤弘美委員

永田の半澤宜孝さんには、キュウリ栽培を見せていただきました。今年は露地栽培のほかにハウス栽培にも挑戦されているとのことでした。8棟のハウス各棟に自動的に灌水する設備を設置しており、キュウリの生育状況はかなり良好のようでした。調査にご協力いただいた皆さん大変ありがとうございました。
(佐藤孝委員)



▲永田・半澤宜孝さん



農業委員会からのお知らせ

農地を売りたい、貸したい
(農業経営規模縮小)方は
農業委員会事務局まで
ご相談ください。

お問い合わせ先

農業委員会事務局(市役所2階)

☎ 55-5148

FAX 22-8533

現在あっせんを依頼されている農地

◇売りたい

所在地	地目等	面積(アール)
茶園二丁目	畑1筆	2
舘野四丁目	田10筆 畑2筆	84 10
舘野原	畑1筆	2

農地の売買や転用をお考えの方は農業委員会へ

農地を農地以外のものにする場合や、権利の移動には農業委員会の許可が必要になります。事前に農業委員会事務局にご相談ください。

転用完了後や非農地証明による地目変更登記はお済みですか？

転用許可を受け農地を農地以外のものにした場合は、速やかに地目変更登記を行ってください。手続きが行われていないため、後々農業委員会事務局に相談に訪れるケースが増えています。

全国各地の今話題が満載

全国農業新聞を購読してみませんか？

農業に関する情報や地域の話や経営と暮らしに役立つ情報をお伝えします。

○発行：毎週金曜日(月4回発行)

○購読料：月額700円(送料込み)



※購読申込みは農業委員、農地利用最適化推進委員または農業委員会事務局

農業委員会への届出はお済みですか？

- 相続(遺産分割・包括遺贈を含む)
- 法人の合併
- 時効取得等

により農地の権利を取得した場合は、相続等の届出をしてください。



広報委員会

委員長

副委員長

委員

会長

職務代理者

野地太郎
奥平貢市
オプザバー
遠藤康子
佐藤洋三
石川重彦
安齋浩一
菊地清吉
武藤栄利
大内和長
佐藤孝
松本太

編集後記

10月に3年ぶりに盛大に開催された二本松神社例大祭二本松提灯祭り。3日間晴天に恵まれ、久しぶりのお祭りに圧巻され、改めてこんなに楽しいものかと感じました。七町合同引き回し最後の若連連合会長挨拶の第一声が「ここまで長かった！この場を夢見て3年間やってきた！」と挨拶したので、感情が移入してしまい私の涙腺は崩壊しました。太鼓台の屋根にある五穀豊穡を願ってのスギナリもいつも増して綺麗にあがっていたようでした。農業委員会だより「いぶぎ」を沢山の方に読んでいただくように事務局、会長はじめ広報委員のメンバーが農業の現状などを解りやすく表現出来るようにしていきますので、農業に関することがありましたら農業委員会にお声掛けください。

松本太